

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	190100131		
法人名	株式会社メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム白ゆり中央 花の館		
所在地	札幌市中央区南9条西7丁目1番28号		
自己評価作成日	平成26年6月22日	評価結果市町村受理日	平成26年8月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190100131-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190100131-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年8月6日(水)		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者様がそれぞれに役割を持ち、自己の能力を発揮し生き生きと生活出来るように日々取り組んでいます。</li> <li>リビングに自然に集い、入居者様同士笑顔で交流できる居心地の良い空間作りが出来ています。</li> <li>職員間で入居者様の日々の状態を細やかに伝達し話し合い、入居者様の状態に合った身体介護、食事の提供を迅速に対応できるように取り組んでいます。</li> <li>馴染みの場所や馴染みの人との関係が途切れないように、入居者様のご家族様、ご友人と共にケアに取り組んでいます。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営者は、地域とともに高齢者を支える事で、地域に貢献したいという思いから、多数の高齢者介護事業を展開している。12年目を迎える当事業所は、地下鉄駅や市電駅から徒歩圏内の場所に位置し、隣には、交番、協力病院が並び、利便性に優れている。近くに中島公園があり、周辺には商店も立ち並び、快適に暮らし易い環境に有る。5階建てのビルの2階から4階までをグループホームとして運営し、1階にはデイサービスが併設されており、季節の行事を合同で執り行うなど、互いの機能を有効に活用しながら、協力的体制を築いている。管理者・職員は、理念に沿ったケアサービスを日々実践出来る様に、各フロアで「今日の理念」の一つ選択し、理念の具現化に努め、利用者の現状と意思を把握して、きめ細かなケアサービスに努めている。地域住民とは、三世交代餅つき大会や、歩行機能や認知機能改善のために開発された、網を踏まないように注意深くゆっくり慎重に歩く「ふまねつと運動」の講習会で、会場を提供したり、事業所主催の夏祭りや盆踊りにも地域住民の参加があり、相互に交流し絆を深めている。また、「白ゆり農園」の園芸ボランティアを始め、ピアノ演奏や傾聴ボランティアの訪問や専門学校の実習生の受け入れなど、地域貢献にも力を注ぎ、利用者も地域住民としての交流を楽しんでいる。事業所は、年に1度家族アンケートを実施し、表出した意見、要望を真摯に受け止め、職員はより良いサービスの提供に努め、家族との信頼関係を築いている。食事も利用者の状態に合わせ、刻み食やミキサー食、お粥などと工夫し、バラエティーに富んだ献立で食の楽しさを提供している。初詣、花見、畑作り、ドライブ、盆踊り、クリスマス、餅つき大会など、様々な外出支援やレクリエーションを企画し、利用者が喜怒哀楽を感じる生活を支援している。職員は、「食事」「生活上」「行事」「事故対策」の委員会に属しながら、事業所の課題を改善し、利用者が笑顔で暮らし続ける支援に取り組んでいる。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念の中に『地域の核となり和をもって輪を広げよう』と掲げ、朝礼でも復唱している。各フロア勤務者で「今日の理念」を一つ選択し、その理念に基づいた一日を過ごせるよう具体的目標に向かってケアにあたっている。	4項目からなる事業所独自の理念は、全てのケアサービスの根幹として意識付けし、朝礼時に唱和し、各ユニット毎に、「今日の理念」を一つ選び、理念の具現化に取り組んでいる。職員は常に、理念や個人の目標を名札の裏に記載し、携帯している。理念について運営者から講話が有り、法人一体となって理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	西創成第4町内会に属しており、回覧板や定期総会への出席、ホームを地域行事の会場として開放する等、町内会と情報を共有し活動に参加している。また地域住民ボランティアが継続的にホームへも関わり交流を続けている。	地域との交流は盛んで、三世代交流餅つき大会や「ふまねっと」講習会では、会場を提供したり事業所主催の夏祭りや盆踊りにも地域住民の参加が有り、絆を深めている。各ボランティアや実習生を受け入れ、地域に開かれた交流の継続を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加や介護予防「ふまねっと」講習会をホームを会場とし提供するなど、交流機会を設けて理解に生かしている。運営推進会議で介護サービスの説明や認知症に関する質疑応答の場がある。近隣住人から認知症介護の相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回実施。定期報告の他、避難訓練の見学総評意見交換、お食事について、家族アンケート調査結果と改善報告・地域・家族交流行事の反省会等状況に即した議題を準備しご意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、町内会副会長、家族の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。家族アンケート内容の検討やサービス評価結果、事業所の運営や行事案内、避難訓練実施など、多様な議題を提示し意見交換が行われ、運営に反映させている。全家族に会議の日程・内容を案内して出欠を確認し、議事録も配布している。	現在、町内会副会長が地域住民の代表として参加しているが、事業所がより豊かに機能し、支援を得るために幅広い立場や職種異なる方々など、少しでも多くの参加が得られる様に、積極的に呼びかける取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政へ申請や提出書類、制度について不明点は都度確認し、ご指導を頂きながら運営に努めている。又、地域包括支援センター職員に運営推進会議参加頂きアドバイスを受け協力関係を築いている。	今年度、区のグループホーム代表者になった管理者は、会議やグループホーム研修会の開催時に場所を提供している。行政担当者とは、利用者個々の問題や実務処理関係などで相談し助言を頂きながら、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会を中心とし、指定基準に基づいて身体拘束がもたらす弊害や禁止行為11項目について等、スタッフ研修を行って勉強会を行っている。ホームフロア毎のエレベーターは常に開錠され使用可能な環境にあり、希望時は職員が同行して外出や散歩を行っている。	事故対策委員会を設置し、スタッフ研修会で定期的に学ぶ機会を持ち、身体拘束の弊害について全職員が理解を深めている。日々のケア実践においても、行動抑制に繋がる声かけになっていないか、職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。エレベーターは24時間解放しており、閉塞感を与えない、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事故対策委員を中心とし、法令の他、特に不適切なケアについては具体的な事例を用いてグループワークし個々がケアを考える時間を大事にスタッフ研修会を行っている。面談でストレスマネジメントやフロア業務改善にも取り組み防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事故対策委員会を中心に地域権利擁護事業や制度についてスタッフ研修会を行い学んでいる。実際に成年後見人制度を活用しており、管理者、職員は日頃から日常的に関係者と話し合いや関わりの機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結や解約は、契約書類の読み合わせ補足説明を行ない質問・確認を取りながら実施。改定は必ず事前に文章説明を実施、必要時面会や電話連絡で直接補足説明や報告同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回ご家族アンケートを実施しご意見を頂く機会がある。又入居者個々にご家族要望シートを作成し面会・電話・fax等細かな情報共有からご要望までを記録し職員で共有、運営へ反映している。玄関に意見箱も設置している。	2ヶ月毎の運営推進会議や年に1度の家族アンケート実施など、意見や要望を表出する機会を確保し、運営に反映させている。家族の来訪も多く、職員は利用者、家族の思いを汲み取る努力に日々努めている。利用者個々に「家族要望シート」を作成し、家族からの情報を記載し、職員間で共有を図っている。毎月発行の「白ゆりだより」には、利用者の近況報告欄を設け、各担当職員が記載している。月刊スケジュール表も毎月郵送し、家族の行事参加に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度行う全体会議では、代表者や管理者が出席しており、会議内では職員が意見を述べる機会がある。日常的に管理者と話す機会があり、意見や提案を伝える事が出来ている。	管理者と職員は、日常的に率直に話し合える関係性が築かれている。同ビルに本部があるので、役員や本部職員が各ユニットを訪問する際には、職員は直接会話する機会も多い。毎月の全体会議にも、本部職員が同席し、職員の意見や要望、提案などを聞き取り、運営に反映させている。年3回、管理者やリーダーとの個人面談も有り、職員は理念を基にして、1年間の目標シートを作成し、自己評価する機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の能力や実績、勤務状況を把握し、給与や労働時間の整備を行っている。会社の中での勉強会や外部研修に参加し知識の向上、試験勉強や希望を考慮し有給休暇が取りやすく、やりがいや意欲を持ち働ける環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新スタッフにはOJT研修期間が設けられており、安心して働けるよう取り組んで切る。毎月スタッフ研修会開催し、職員一人一人の力量や興味に合わせ年に1~2回外部研修に参加し研修後には会議の場で伝達講習が行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	中央区グループホーム管理者連絡会やスタッフ研修会が当ビル会議室を使用して定期的に開催され他ホーム職員との意見交換や学びを通じて質の向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当で事前訪問し、直接会話をし、ニーズの把握をし、介護サービス担当者との情報交換を行い、安心した関係づくりが行えるように努め、ケアプランの立案を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや不安を細やかに聞きし、要望にお応えできるように努め、職員間でも情報を共有し、入居当日から信頼関係が構築できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時の聞き取り、ご本人、ご家族様のホームの見学、面談を通して、ニーズの把握、必要な支援を見極め、サービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯・おしぼりたため、カーテン開閉、モップがけ等を個々の役割として自主的に行なえる環境を作り、一緒に自室の掃除や調理等を行い、お互いに支え合い生活出来る関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、『ホーム予定表』や『行事案内』を送っており、面会に役立てて下さっている。『白ゆり便り』や面会時・電話での近況報告を行ない、行事への参加や外出支援のご協力をお願いしたり、離れていても手紙や電話、faxのやりとりで入居者様と共に支え合う関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人が定期的に来所し、自室で話をしたり、ご家族お手製のお食事を召し上がっていたり、ご家族やお友達と過ごすように配慮している。自宅や町内への外出、他施設への訪問の支援、手紙や電話等を通して関係が継続出来るように	認知症の人のためのケアマネジメントシートを活用し、利用者の馴染みの関係の把握に努めている。家族、友人、知人の来訪時には、お茶でもてなし、居心地良く過ごせる支援に努めている。コンサートや旅行、墓参り、帰省などの遠出には、家族の協力を得ながら関係継続の支援に努めている。電話の取り次ぎや郵便局へ手紙の投函、近所の店への買い物など、地域社会との関係性の継続には職員が同行し、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の観察から入居者様の関係性を考慮した席やソファの配置を行い、リビングに自然に集い、入居者様同士が思い思いの話をし、関わり合い、自主的にお手伝いを分担し支え合う様子がみられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降も了解を得て入院先への面会を継続している方もいる。又ご家族から電話やお便りを頂くこともあり関係性を大切にしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に担当職員を決めており、担当者を中心に日々の関わり合いの中からご本人言動・様子、ご家族様の意向を記録に残し、職員間で情報を共有しご本人の思いや意向の把握に努めている。	利用者個々の担当職員を中心に、触れ合う時間を多く持ち、会話や表情、仕草から思いや意向を汲み取っている。日々の様子は介護記録に残し、職員間で情報を共有している。アセスメントは3ヶ月毎に見直され、新たな情報をもとに、利用者の全体像を掘り下げて、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から情報を収集し、センター方式を用いて情報を集約し、生活歴、サービス利用までの経過等を把握しこれまでの暮らしの継続が行えるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録様式を個別に作成し、日々の記録から1日の様子、精神面の変化、能力の把握に努め、入居者様に合ったケアの提供を行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族から意向を確認し、フロア会議でモニタリング・サービス担当者会議を実施、日常の細かな変化や気づきを元に職員間で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	「認知症の人のためのケアマネジメント」のアセスメントをもとに、利用者個々の担当者は日々モニタリングを行い、月1度のフロア会議の中でサービス担当者会議を実施し、職員間で情報交換を行い、本人・家族の意向に加え、職員の意見や気づきを話し合い検討している。カンファレンスには傾聴ボランティアの参加も有り、情報交換を行い、本人本位の介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月毎に見直され、急変時には随時見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録様式を作成し、日々の様子を詳しく記録し情報を収集し、ケアノートに気づきやケアの工夫等を記入し介護計画の見直し実践へ活かすよう努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームには傾聴、ピアノ、カラオケ、園芸ボランティア等様々なボランティアが入り柔軟なサービスに取り組んでいる。又、併設DSと合同行事を開催し交流する機会もあり多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の三世交代交流餅つき大会、『ふまねっと講習会』をホーム内で開催、神宮祭の歩道旗立て、園芸ボランティアを交え畑作業、勤労感謝は地域の交番等へ感謝状を渡す等繋がりを大切にしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を行い希望に合った医療の継続を支援。受診時は連絡調整や情報提供の対応をしている。専門医受診も同様に支援を実施している。	協力医及び精神科医の往診は2週に1回、歯科医や皮膚科の往診は希望に応じて実施されている。かかりつけ医や専門病院の受診は基本家族が対応しているが、職員の同行支援も行われている。看護師職員のバイタルチェックにて、日々の健康管理は適切に行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師がフロア巡回し体調管理や健康相談、必要な指示を受けている。併設サービス業務し巡回以外にも細かな連携が出来る。24時間オンコール体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中は職員が面会し医療機関とも情報を交換しながら安心して治療に専念する事が出来る環境作りに努めている。また早期退院に向けた話し合いやご家族様を含めた精神的なサポートを行い、退院後もホームでの暮らしが継続出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームに重度化の指針がある。入居前に記入された『リビングウィルのお願い』を元に重度化、終末期に向けご家族様の意向を確認しながら、生活支援に関する話し合いを行い関係者と共にチームで情報を共有しながら取り組んだ。	医療連携体制に伴う、重度化や看取りの対応指針は整備され、入居時に説明し同意を得ている。現状では事業所での看取りは行われず、医療機関などに移行しているが、終末期には、薬剤師、主治医、看護師、介護職員で話し合い、出来る限りのケアサービスに取り組み、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急急変時のマニュアルがあり、職員に周知している。急変や事故に備えホーム看護師と日々の様子を伝達し合っている。定期的に救急救命講習を受講し技術の確認、緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間3回防災訓練を実施、家族の参加もある。119番直通電話は3階に設置。緊急時連絡網に地域住民の番号を登録、駆けつけ応援体制がある。災害時を想定し部分訓練の実施と実際の震災事例を用いて勉強会を実施した。	消防署指導の下に、昼・夜を想定した避難訓練を、年3回実施している。訓練は、運営推進会議日に合わせ、家族や住民の参加を得ているが、住民の参加が一人の状態である。訓練後は課題についての話し合いが持たれている。更に、定期的に部分訓練や自然災害時のシミュレーション訓練も実施している。マニュアルを整備し、非常用備蓄品も確保している。	事業所は、災害対策に十分配慮しているが、避難訓練は、訓練をする毎に課題は表出してくるので、更なる取り組みとして、多くの地域住民に参加協力を呼びかけ、災害時における協力者確保に努めるとともに、具体的な役割についても協議し、推進される事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時はインシャル・居室名を使用、入浴や排泄等の声掛けも周囲の環境に配慮し内容や場面に合わせた言葉かけをする等、配慮している。	プライバシー研修を行い、職員は利用者の誇りや尊厳を尊重し、プライドを傷つけない言葉かけに配慮して対応している。申し送り時にも、利用者名をインシャルや居室名に言い換えるなど、プライバシーに配慮している。個人情報の取り扱いにも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いに合わせ、外出や入浴日の決定、洋服の選定、1日の過ごし方等自己決定出来る取り組みと、思いの表出がしやすい関係づくりを日々行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、就寝時間等、個々の体調や気分、生活歴に合わせて臨機応変に対応し、ご本人の希望や生活リズムに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を一緒に選び、鏡を見て整容をしたり、電気シェーバーでの髭剃りの手伝い、毎朝化粧をする方にはゆっくりと対応し、お洒落を身だしなみを整えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に献立の話題を持ち、調理の下準備・片付けを一緒に行っている。苦手な食材時は予め代替品を用意、個々の状態に合った食事形態別で調理し提供している。	献立は、食事委員会で各ユニット毎に、利用者の嗜好を考慮しながら、カロリーも計算して作成している。利用者の状態に応じて、刻み食やミキサー食、お粥など配慮し、畑で収穫した旬の食材も活用しながら、調理している。行事食や外食も取り入れ変化を楽しみ、食べる喜びに繋がる様に支援している。職員は利用者と共に食卓を囲み、お絞りたたみなど、食事の準備や片付けは利用者の力量に合わせて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分量を把握し記録に記入し、食事が減少した時には、食べたい物、食べられる物を食べられる時に提供し、栄養補助も活用し工夫。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無料歯科検診を受け、個々に合わせた口腔ケアや道具の指導アドバイスを受けられ職員で継続できている。個々の能力に応じて声掛け～介助など必要な支援を行い口腔内状況を把握している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録して把握、個々のサインやタイミングでの声掛けや介助を、個別に合せたパット種類の検討も実施し支援。入退院によりオムツを使用した方も誘導に取り組みトイレで気持ちよく排泄できる支援を行えている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、排泄のタイミングや表情、動作などを見極めながら誘導し、トイレでの排泄自立支援に取り組んでいる。衛生用品は、利用者の状態に合わせ、多種種類の衛生用品を検討し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、ホットパックや腹部のマッサージ等自然に排便できるように努め、必要時は医師・看護師と相談し下剤の調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望、気分、体調に合わせて曜日や時間帯を相談し、馴染みの言葉(ロシア語)を使ったり興味のある話題を提供し会話する等気持ちよく入浴できる支援をしている。	利用者の体調に配慮しながら、週2回以上を目安に入浴支援をしている。希望があれば毎日入浴出来る体制は整っている。同性介助の対応で、拒む利用者には、シャワー浴や清拭で衛生保持に努めている。入浴時は、利用者の得意な異国語で話したり、触れ合いを大切に、思いの把握に努めている。また、菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は落ち着くまで付き添いお話をしたり、一緒にTVを見る等安心できる環境作りをし、リビングでもいつでも休めるようソファを設置し安心して休息できる環境がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・副作用の把握を行い、処方変更時は特に注意し効果や副作用を薬剤師に確認、個々に合わせた服薬方法の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、物を運ぶ力仕事、食器拭き等入居者同士役割を分担し張り合いが持ち生活している。好みの淹れ立てのコーヒーを提供したり喜びを持って生活出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と相談し協力し自宅や温泉宿への外泊、他施設への奥様の面会、日常的に近所のスーパーへの買い物や散歩、園芸ボランティアとの苗の買い出し、町内の催し物への参加等戸外へ出かけられるように支援をしている。	行事委員が年間の行事計画を立て、春の桜見物や秋の紅葉狩り、初詣、外食など、時には家族の参加協力を得ながら、支援している。日常的にも、公園散歩や買い物、畑作業、受診など、戸外に出る事を積極的に行っている。また、個別の対応として、家族の支援の下にコンサートや自宅への外泊、法要と気分転換や五感刺激の機会としての外出の活用を努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し金銭の所持を決めている。現在常時財布を持つ入居者様はいないが、ホームで預かり管理し買い物外出時の際はいつでも所持し支払いをする機会がある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族とホームの電話やfaxでのやり取りが定期的にある。手紙のやり取りも長く継続できるよう促しやハガキの購入や投函を支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関に入居者様の作品を展示し他者にも見ってもらうことで喜びを感じて頂いたり、季節をイメージさせる飾り付けを行い、入浴時には菖蒲・ゆず風呂など昔を思い出し季節が感じられる工夫をしている。クッションやひざ掛けを整えておくことを意識し気分良く過ごせるようにしている。	3ユニットの壁のクロスカラーを変える事で、それぞれの個性が引き出されている。リビングには食卓テーブルとソファを配置し、畳敷きの小上がりも用意されている。キッチン是对面式で、カウンターの高さは見守り易く設計されている。L字型に広がる窓は開放感があり、四季折々の街の景色が伺える。車椅子が往来出来る幅広の廊下には、誰もが自由に出入りできる公共の空間が設けられ、利用者それぞれが寛いでいる。洗面台やトイレは車椅子対応型で、換気や音・光、にも配慮し、清掃に努めている。事業所内の随所に季節感有る飾りや利用者の作品、行事で撮った写真などが飾られ、家庭的で寛ぎやすい空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下の途中、廊下の奥等にソファやテーブルを配置し、食席以外でも集い会話を楽しめる環境や、他者の視線が気にならないような配置への誘導を行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や仏壇、奥様の手作りの暖簾を居室入口にかけたり、好きな動物や家族の写真、自分の作品を飾りご本人らしく居心地の良い環境作りを行っている。	各居室には洗面台とクローゼットが設置され、生活用品の整理整頓に適している。利用者の意向や家族の協力の下に、馴染みの家具やベッド、テレビ、仏壇などが持ち込まれている。壁には手作りカレンダーや家族写真、趣味の作品などを飾り、個性が活かされた居室となっている。利用者の日常動作の変化に伴い、家具の配置替えも検討するなど、安全に考慮しながら、居心地良く過ごせる居室作りに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かり易いよう手前から掲示、浴室入口に『ゆ』のペナントを下げ雰囲気作り、小上がりの段差を分かりやすく印をつけたり自立した生活への工夫を行っている。			